

ご旅行条件（要約）

■募集型企画旅行契約

この旅行は(株)タビーズ（以下「当社」）が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」）を締結し、(株)ユーラストラベルが問合せ・申込みを受け付けます。旅行条件は下記ほか、別途旅行条件書（全文）、出発前にお渡しする最終旅行日程表＝確定書面および当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

■旅行条件・旅行代金の基準

この旅行条件は2016年5月16日を基準としています。また、この旅行代金は2016年5月16日現在の有効なものとして公示されている運賃・規則、または、2016年5月16日現在認可申請中の航空運賃・適用規則を基準として算出しています。

■旅行契約の解除

最少催行人数に達しなかった場合、旅行を中止することがあります。この場合は、出発の23日前までにお知らせします。

■取消料

旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、下記の金額を取消料として申し受けます（お一人様）。

契約解除の日	取消料
旅行開始日の前日から起算して遡って40日目にあたる日以降～31日目【ピーク時】 4/27～5/6,7/20～8/31,12/20～1/7に開始する旅行	旅行代金の10%
旅行開始日の前日から起算して遡って30日目にあたる日以降	旅行代金の20%
旅行開始日の前々日以降	旅行代金の50%
旅行開始後の解除または無連絡不参加	旅行代金の100%

※オプション・ツアー代金も上記取消料に準じます。

※査証（ビザ）取得実費代金、渡航手続手数料は、そのまま申し受けます。

ご旅行要項

■旅行代金に含まれるもの（一部例示）

- ・航空運賃：旅程に表記した区間の個人包括旅行運賃
- ・宿泊料金：2人部屋基準、税・サービス料
- ・食事代：旅程に表記のもの
- ・空港、駅～ホテル間の送迎車料金
- ・添乗員同行の経費（同行と明示した場合）
- ・鉄道運賃（旅程に明示したもの）
- ・旅程に明示した市内（郊外）見学のガイド料、入場料、チップ

■旅行代金に含まれないもの（一部例示）

- ・旅程以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
- ・渡航手続費用：旅券印紙代（新規に申請される場合）
- ・渡航手続手数料：出入国記録等書類作成費用、査証（ビザ）取得実費・手数料
- ・超過手荷物料金：規定の重量・大きさ・個数を超える分
- ・個人的費用：電話、電報、FAX、クリーニング代、追加飲食費用
- ・お一人部屋追加料金（相部屋の方がいない場合も同様）
- ・空港施設使用料、航空保険料および保安料
- ・訪問国入国税、燃油特別付加運賃
- ・日本国内の交通費、前泊の費用
- ・任意の海外旅行傷害保険料、オプション・ツアー料金

■時間帯の目安

およそ以下の通りです。航空機、バスなどの移動時刻をもとにした目安です。実際の時刻とは異なる場合がありますので、予めご了承ください。

早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜
04:00	06:00	08:00	12:00	17:00	19:00	23:00
						04:00

※当パンフレット掲載の写真はすべてイメージです。

“いい旅”育てて55年

東京都知事登録旅行業 第3-6973号 日本旅行業協会正会員 株式会社ユーラストラベル 総合旅行業取扱管理者：榊原 晋治

問合せ 申込先 **ユーラスツアーズ** ☎03-6453-6633 FAX 03-6453-6630

●メール：tokyo@euras.co.jp ●ホームページ：http://www.euras.co.jp

〒108-0014 東京都港区芝 5-13-18 いちご三田ビル 9階

営業時間：月～金曜日/09:30～17:30(休業日：土・日曜・祝日)

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第1906号 日本旅行業協会正会員

〒108-0014 東京都港区芝 5-13-18 いちご三田ビル 9階

株式会社タビーズ

申込方法

①下記の「参加予約票」に漏れなくご記入いただき、**旅行社宛にメール、FAX、郵送等**にてお送りください。

※直接お電話あるいはメールにてのお問合せ・お申込み希望のご連絡でも受け付けいたします。

※当社ホームページ（http://www.euras.co.jp）からでも直接「正式申込書」にご記入⇒添付してメール/FAX可。

②「参加予約票」あるいは直接のご連絡後、正式申込書と取引条件説明書、必要書類をお送りいたします。書類到着後に条件確認の上、**申込書をお送りの上で申込金50,000円**（旅行費用内金）を以下の指定口座へ**お振込み**ください（振込手数料はお客様負担でお願いします）。※正式申込書と申込金の到着をもって正式申込となります。

●口座名義：(株)ユーラストラベル ●郵便振替口座：ゆうちょ銀行 記号番号 00180-8-265002（〇九店265002）

●銀行口座：みずほ銀行 神谷町支店（普）口座番号：1370507 / りそな銀行 麻布支店（普）口座番号：1782149

※領収書は、銀行あるいは郵便局が発行する明細書をもって替えさせていただきます。

ユーラスツアーズ（株式会社ユーラストラベル）御中

※ご友人・知人の方への案内を希望される場合は、②以降の欄にご記入いただければ、同時にご案内申し上げます。

参加予約票 **チェルノブイリ 実態と現状をたどる旅**

①	ふりがな	電話	③	ふりがな	電話
	お名前			お名前	
	住所 〒			住所 〒	
	メール			メール	
②	ふりがな	電話	④	ふりがな	電話
	お名前			お名前	
	住所 〒			住所 〒	
	メール			メール	

NO! NUKES

～原発ゼロをめざす～

チェルノブイリ原発事故から30年 福島原発事故から5年ー

「今」改めて原発と放射能被害について考える

チェルノブイリ 実態と現状をたどる旅

期間 2016.9月28日(※)～10月6日(※) 9日間

費用 342,000円 締切 8月26日(金)

●共催企画ならではの訪問・交流先●

チェルノブイリ原発事故で被災した子どもたちを支援する施設

○ **サナトリウム「希望21」**

放射能による測定～放射能排出に有効な薬剤を開発・配布

○ **ベルラド放射能安全研究所**

原発事故に関する諸問題解決の中心的研究所として設立

○ **ベラルーシ放射線生物学研究所**

無人となったかつての5万人街とチェルノブイリ原発を間近に

○ **チェルノブイリ原発と「ゴーストタウン」**

医療支援と医学的観点での除染のために設立された機関

○ **放射線医学研究所付属病院**

《旅のおさそい》

今年は「チェルノブイリ原発事故30周年」に当たります。日本では「福島原発事故5周年」です。

今回、「原発住民運動全国連絡センター」と「日本ユーラシア協会」は共催して、ベラルーシ、ウクライナの現地調査を行うことになりました。

事故時に放出された放射能のうち「セシウム137：半減期30年」「ストロンチウム90：半減期28.8年」とも重なります。現地調査では、関係機関などを訪れ、被災住民や専門家とお会いすることを通じて、「事故30年の実相」を知る貴重な機会となることを願っています。

「原発事故」を通じて、日本からの参加者とベラルーシ、ウクライナ現地の人びととが一期一会の縁で結ばれることを願っています。



原発問題住民運動全国連絡センター

東京都千代田区三崎町 2-11-13-II-402

☎:03-5215-0577 FAX:03-5215-0578

日本ユーラシア協会本部

東京都世田谷区経堂 1-11-2

☎:03-3429-8231 FAX:03-3429-8233

ベラルーシ・ウクライナ 2か国9日間

チェルノブイリ原発事故から30年、今なお「ゾーン」と呼ばれ、汚染による立入禁止区域が存在する

ベラルーシ・ウクライナでの主な訪問・見学先

訪問・見学① 原発事故により被災した子どもたちを支援する

●サナトリウム 希望「21」

ベラルーシとドイツにより92年に設立。94年9/5にミンスクの北80kmの湖畔にサナトリウムを開設。受入れ対象としているのは1平方キロあたり5キュリー以上の放射能で汚染されている地域に住んでいる子どもたち。

きれいな環境と高品質でバランスのとれた食事と同時に、医師・教育者たちとの連携による社会心理学的リハビリも健康回復の基礎になっています。教師、社会教育者、医師等が、子どもの自発性を尊重し活かすことに努めています。

訪問・見学② 放射能汚染の被害を科学的に測定・研究

●ベルラド放射能安全研究所 (予定※)

90年に非国立系の研究所として西欧からの支援を受け設立。研究テーマは土壌・水質汚染の測定、食品の測定、人体の測定～その後2000年からは測定と平行してペクチン剤であるビタペクトを開発・製造・販売し、ボランティア団体も購入し、チェルノブイリの子どもに配布しています。各国の団体から支援を受けています。現在、マイクロバスにホールボディカウンタを載せて汚染地域の学校へ測定の巡回に行っています。

訪問・見学③ 放射能汚染の被害を科学的に測定・研究

●放射線生物学研究所 (予定※)

89年にベラルーシ最高会議で採択されたチェルノブイリ対策の国家計画で、研究活動の指導的機関と定められた研究所。基本的研究分野として土壌・水・大気・植物に対する放射線の影響と変化、放射線被曝の生体機能や生物への影響と生態系の変化、動物等の遺伝子への影響、低レベル放射線被曝の影響、人口および天然の放射線防護剤などを研究。また放射線の大気中への放出、拡散と地表沈着、事故直後の汚染の状況なども研究。

訪問・見学④ スラブチッチとプリピャチ

●「計画都市」と「ゴーストタウン」

●スラブチッチ：事故直後の86年に元々チェルノブイリ原発で働いていた人・家族がプリピャチから避難する居住地として作られた。経済的・社会的状況は、現在も発電所その他のチェルノブイリ立入禁止区域の施設に依存している。
●プリピャチ：70年にチェルノブイリ原発で働く従業員の居住地として造られる。事故直前には約5万人の人口があり、エレベーター完備の高層マンションや近代的建物、病院、カルチャーセンター、公園など様々な施設があり緑豊かな街だった。

訪問・見学⑤ 原発事故の悲惨さを後世に伝える博物館

●ウクライナ国立チェルノブイリ博物館

事故6周年にあたる92年に設立、96年に国立博物館として登録。入口には放射能汚染で住めなくなった「消滅した村や街」の標識があり、実際にチェルノブイリ30キロ圏内にも同様の標識がある。その他、亡くなった人たちの写真や遺留品、当時使用されたガスマスクや防護服などが展示されている。いかにして事故がおこり、今に至るか、原発事故の悲惨さを伝えている。また広島や長崎の原爆被害についても展示。

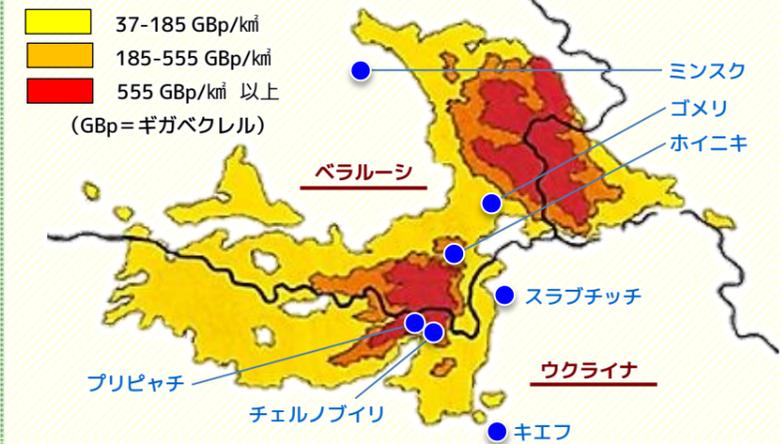
訪問・見学⑥ 医療支援と医学的な観点で除染するため開設

●放射能医学研究所付属病院 (予定※)

86年に医療支援と医学的な観点での除染をするために開設。設立にあたっては、イタリア・フィレンツェ市から援助。センターは3つの機構から構成されている。また、日本の科学諸機関と広範な協力関係にあり、長崎・広島の大学や千葉の放射線医学研究所とも緊密な協力関係にあった。汚染地域の住民および30キロ圏内の汚染地域の住民や一部の事故被曝者を受け入れていた。



チェルノブイリ原発事故時の放射能汚染



1986年4月26日、世界を震撼させた史上最悪の原発事故が、旧ソ連（現ウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所4号炉で発生した。

ヘリコプターから5000トンの砂や鉛などが投下され、14日後にようやく收拾がつくが、200キロ圏内の地域は高濃度汚染地域となり、風に乗った放射能は世界各地へ。8000キロ離れた日本でも野菜、水などから検出される大事故となった。

原発労働者の街「プリピャチ」住民に“地図から消えた村”での生活に戻ることは2度となかった。悲惨な事故から30年の今でも18キロ圏内の放射線量は、東京と同程度となり、立入禁止ゾーンを含め、観光名所の1つとなった。

訪問都市のご案内 (各国の首都)

●**ミンスク** (ベラルーシの首都)
水と緑豊かな近代都市。ソ連崩壊後に作られたCIS(独立国家共同体)の本部が置かれる。ヴァイキング時代からバルト海と黒海を結ぶ貿易の要所。第二次ポーランド分割後に帝政ロシアに組込まれる歴史を有する。



●**キエフ** (ウクライナの首都)
1500年あまりの歴史を有する東スラブ随一の古都。988年ロシア・ウクライナ・ベラルーシに相当する東スラブ最初の統一国家となり、新興のモスクワ公国に政治・宗教の中心が移るまで「母なる町」として隆盛を極める。



設定項目	旅行条件・費用			
旅行期間	2016年9月28日(水)～10月6日(木) 9日間	申込締切	8月26日(金)	
旅行費用	332,000円(お一人様料金)	実施人数	35名様(最低実施人数20名様)	
別途費用	燃油サーチャージ: 13,060円、成田空港使用料・訪問国空港税・保険・諸税: 4,730円			
	ベラルーシ・ビザ(査証)申請費用: 5,400円 ※実費+手数料/団体ビザにて手続き 一人部屋追加料金: 48,500円 保険料 べラルーシ入国保険: 1,250円			
※訪問国のベラルーシでは、事前のビザ(査証)取得の際に、海外旅行傷害保険の加入を義務付けています。渡航手続きでご案内いたします保険にご加入いただくか、お手持ちのクレジットカード付帯保険の「証書」が必要となります。				
日次	都市	スケジュール 【宿泊地 / 食事】		
①	9/28 東京・成田発	夕刻(21:20発予定):空路→アラブ首長国連邦のアブダビへ	宿泊地	機中泊
②	9/29 アブダビ着発 ミンスク着	午前(04:35着～07:35発予定):空路→ベラルーシの首都ミンスクへ 午後:ミンスク市内見学=長崎原爆被害キリスト教有志が建立した◎「長崎の鐘」、ナチスに抵抗する活躍を伝える◎大祖国戦争史国立博物館の見学、◎トラエツカヤ旧市街の散策	宿泊地	ミンスク泊
③	9/30 ミンスク	●チェルノブイリ原発事故の放射能汚染と被災について 午前:サナトリウム「希望21」の訪問=94年開設。高濃度汚染地に住む子どもたちのための学校とサナトリウムの機能を兼ね備えたりハビリ施設。 午後:ベルラド放射能安全研究所(非国立系の研究所)の訪問予定※ ※90年に設立。放射能汚染された地域の住民や自然環境を科学的に研究 夕刻:チェルノブイリ・セミナー(※)を予定 ※現地の専門家を招いたセミナー	宿泊地	ミンスク泊
④	10/1 ミンスク発 ホイニキ地区着	早朝:陸路、「高度汚染地帯」のホイニキへ(約350キロ) ●事故当時、高度の放射能汚染地域とされた街へ 着後:被爆住民の現状、残存放射能レベルについて 午後:陸路、放射能汚染指定地域ゴメリへ(約130キロ) 着後:放射線生物学研究所の訪問予定(※) (※土曜につき、先方の都合確認中)	宿泊地	ゴメリ泊
⑤	10/2 ゴメリ発 スラブチッチ着	早朝:陸路、専用車にてチェルノブイリに隣接する村へ(約180キロ) ●チェルノブイリ原発の労働者と家族のためにつくられた街へ 着後:「計画都市」スラブチッチの街を見学=◎スラブチッチの居住区、スラブチッチ駅からチェルノブイリ立入禁止区域へ延びる◎線路 午後:陸路、再びキエフへ 着後:ウクライナ国立チェルノブイリ博物館の見学=●チェルノブイリ原発事故犠牲者を追悼博物館	宿泊地	キエフ泊
⑥	10/3 キエフ発 チェルノブイリ	●チェルノブイリ原発と事故に関連する場所・街などの訪問 終日:『チェルノブイリ原発視察』=◎30キロ避難区域 ⇨チェルノブイリ到着、◎10キロ圏内と避難区域境界を通過、◎100キロ離れた所から4号炉と炉を覆う予定の金属製の巨大シェルター視察、◎「ゴーストタウン」プリピャチ市の視察、◎1号炉と4号炉の冷却水池～チェルノブイリ市内視察 夕刻:陸路、再びキエフへ	宿泊地	キエフ泊
⑦	10/4 キエフ	午前:放射能医学研究所付属病院を訪問(※) 午後:キエフ市内見学=市内では現存最古の◎世界遺産・聖ソフィア大聖堂、◎黄金の門、南スラブ最大の修道院◎世界遺産・ペチェルスカヤ大修道院、	宿泊地	キエフ泊
⑧	10/5 キエフ発 ミンスク着発 アブダビ着発	午前(10:10発予定):空路→ミンスクへ ミンスク経由にて、空路→アブダビへ 夜(22:05発予定):空路→帰国の途へ	宿泊地	機中泊
⑨	10/6 東京・成田着	午後(13:15着予定):到着後、入国審査・解散		食事

●利用予定航空会社: エティハド航空 ●宿泊予定ホテル(以下同等クラス): ベラルーシ(ベラルーシ★★★★)ゴメリ(ツーリスト★★)キエフ(ラディソン★★★★、ルーシ★★★★) 注: 日程中のマーク: ●印=入場見学、◎印=下車見学、○印=車窓見学、🍴=食事付、🚰=自由食、🛏=機内食 《朝食4回・昼食3回・夕食4回、機内食別》

※印=現在訪問を打診中です。日本ユーラシア協会本部と在日ベラルーシ大使館からも訪問依頼をしています。先方の都合により変更となった場合は、代替案をお知らせいたします。